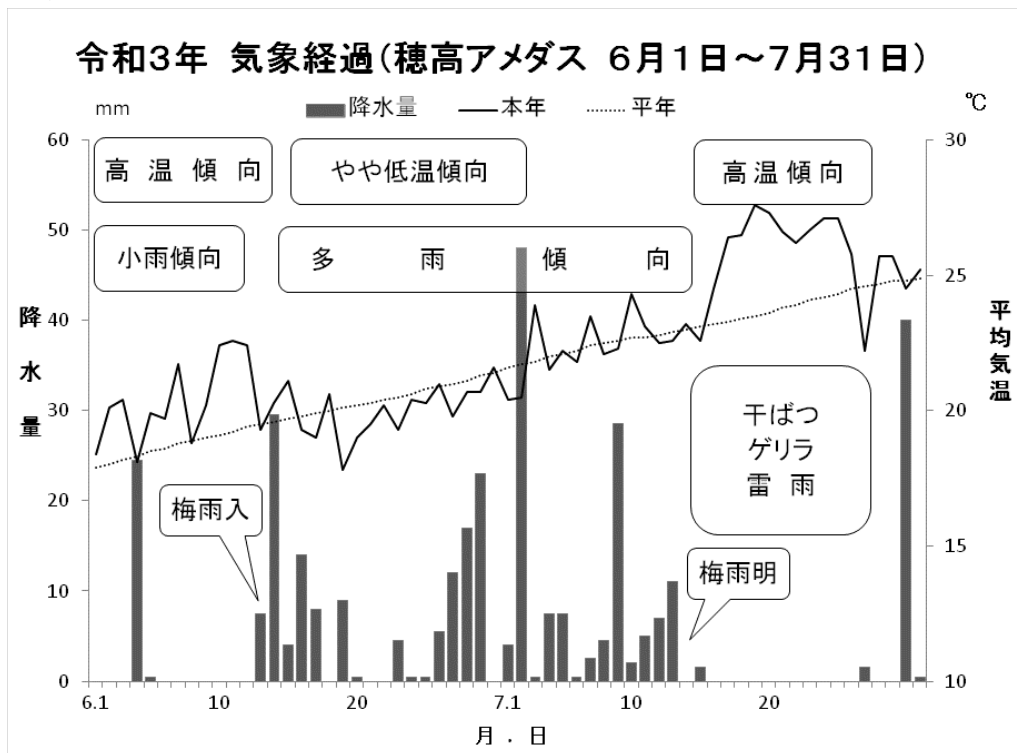


# 令和3年 作物技術普及情報 第14号

## 水稻の生育状況及び収穫開始予測について

### 1 気象状況



7月16日の梅雨明け以降、依然として気温の高い状況が続いています。降水量が少なく干ばつ傾向ですが、局地的には雷を伴う豪雨となる不安定な天候となっています。

7月29日気象庁発表の向こう1か月予想では、晴れの日が多く気温は高いと予想されています（特に8月の前半は平年よりかなり高いと予想されています）。降水量は平年並みと予想されています。

## 2 水稻の生育状況

幼穂形成期以降が高温のため、当初よりも生育がかなり進んでいます。定点圃場のコシヒカリも8月3日頃（平年より6日早）に出穂期を迎えると予想され、出穂が最も早かった平成30年並に進んでいると思われます。

8月1日現在、現地の平坦地の早生品種（あきたこまち、美山錦等）は傾穂期です。5月初旬植のコシヒカリは出穂期、5月上旬植のコシヒカリは出穂始めを迎えています。

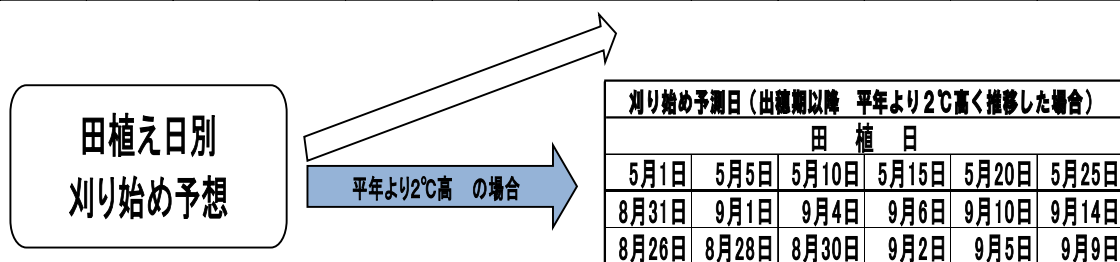
## 3 水稻の刈り取り開始予測

出穂がかなり早まっており、平坦地・5月初旬植・コシヒカリの刈り取り開始時期は9月初旬からが予想されています。

今後も高温が予想されていますので、刈り取り開始予測の「高温版」を目安に、施設稼働の計画や収穫計画にご活用ください。

【表は豊科定点圃場：標高540mの推定値（8月1日現在）です】

| コシヒカリ<br>標高550m | 苗質    | 推定出穂期 |       |       |       |       |       | 刈り始め予測日（出穂期以降 平年並みの気温） |      |       |       |       |       |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------------|------|-------|-------|-------|-------|
|                 |       | 田 植 日 |       |       |       |       |       | 田 植 日                  |      |       |       |       |       |
|                 |       | 5月1日  | 5月5日  | 5月10日 | 5月15日 | 5月20日 | 5月25日 | 5月1日                   | 5月5日 | 5月10日 | 5月15日 | 5月20日 | 5月25日 |
| 稚苗              | 7月28日 | 7月29日 | 8月1日  | 8月3日  | 8月6日  | 8月9日  | 9月4日  | 9月5日                   | 9月9日 | 9月11日 | 9月15日 | 9月19日 |       |
| 中苗              | 7月24日 | 7月25日 | 7月27日 | 7月30日 | 8月2日  | 8月5日  | 8月30日 | 8月31日                  | 9月3日 | 9月6日  | 9月10日 | 9月14日 |       |



標高別・移植日別の詳細は「8月1日現在の水稻刈り始め予測（平年並み版、高温版）」をご覧ください（ホームページに掲載いたします）。

## 4 斑点米カメムシ類について

現地からカメムシの発生が多いという情報が入っています。また病害虫防除所より7月30日付でカメムシに関する発生予察注意報が出されました。以下の点にご留意いただき、防除の徹底をお願いいたします。

- (1) 本田防除が最も重要です。散布適期は出穂10日後です。粒剤は効果の発現まで時間がかかるので、出穂7日後を目安に散布してください。

この防除でアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の本田定着及び幼虫の増加を防止し、アカスジカスミカメの成虫の本田侵入を防止します。

- (2) 斑点米カメムシ類は、稲の出穂以前は畦畔や休耕田等で生育・増殖します。畦畔の草刈はすでに実施されていると思いますが、出穂期以降の草刈は水田にカメムシを追い込むので避けてください。

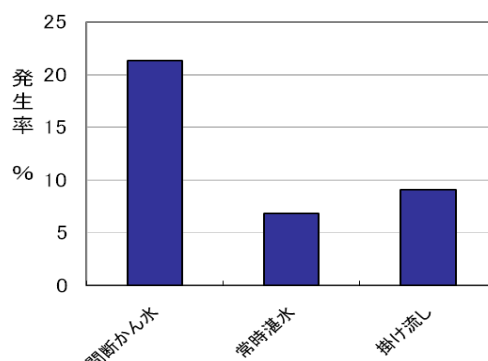
## 5 高温登熟障害対策について

向こう1ヶ月の気温は「平年より高い」と予想されており、高温登熟障害対策に注意はらう必要があります。

これからのポイントは「出穂前後3週間の湛水」です。出穂から2～3週間が高温で経過（高温登熟）すると、白未熟米や胴割米の発生しやすい体質になります。

高温登熟による白未熟米、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は、圃場に水が入っている状態としてください。

水路に水が十分あり、生育が遅れる恐れがなければ、昼～夕方に4時間程度の掛け流しもご検討ください。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)  
注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。  
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

土壌水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟をはかるため、水管理の徹底をお願いします。